



たすけあいセンター

ジュントス

JUNTOS! 通信

2017.11.11 発行 号外

JUNTOSは
ポルトガル語で
“いっしょに”
日本語版



もり・はしプロジェクト(森下町と橋本町の地域再生)の取り組み

その1 旧片野医院と住宅を、「えんがわハウス」にする取り組みが始動します



2015年の水害前日まで診療が行われていた「旧片野医院」と築100年の住宅が災害後に空家になっていました。助け合いセンタージュントスは、この場を人が集える拠点に再生すべくボランティアの手で泥出しや片付けに取り組んできましたが、500坪の土地にある建物と庭、そして思い出のある診療所を残し再生するには6千万円もの資金が必要です。この場を残して欲しい、お茶のみができる場が欲しいという地域の皆さんの声に背中を押され、私たちはジュントス・常総復興まちづくり株式会社を設立し、資金を集めることにいたしました。

空家を活用して、地域の人たち、特に高齢者や子育て世代の方、被災した方の生活がより豊かになるような、皆が集える生活支援拠点として作り変えるこの取り組みは10月に国の補助事業(最大2千万円)の対象に選ばれるなど、資金の壁を越える動きも生まれています。水害の時に私たちは人が協力すれば色々なことが具体化できることを学びました。今もジュントスではボランティアが病院などの送迎や引っ越しの手伝いをしています。困った時は助け合い、最後まで安心して暮らせる地域、皆で何かをして笑い合えるような地域にすることが心の復興だと思います。えんがわハウスが具体化すれば、そこで色々な活動が楽しめます。その場づくりの主役は地域の皆さんですので、是非関わっていただきたいと思います。

下記により、実際に場所を見ていただく内覧会を行いますので、お越しください。

11月23日(木)13:00～14:15 集合場所 旧片野医院駐車場(踏切のとなり)

建物の状況、改修・活用計画の説明の後、地域の皆さんで、この場でしたいこと、期待するイベントやあったらいいスペース、サービスなどを話したいと思います。

この日は同じ場所で、**森下町・橋本町の自主防災を考えるイベント**も行います。(裏面参照)こちらもぜひご参加ください。(14:30～16:30)

たすけあいセンター「JUNTOS」

住 所：常総市水海道森下町4335 (関東鉄道常総線「北水海道駅」から徒歩5分)

☎：0297-44-4281 FAX：0297-44-4291 info@npocommons.org

時間：午前9:00～午後6:00 (日曜は定休日)



もり・はしプロジェクト(森下町と橋本町の地域再生)の取り組み

その2 安心して暮らせる街にするための自主防災を進めています

堤防の強化は進められていますが、水害の可能性はあります。前回の水害の教訓を生かすには、具体的な防災の取り組みを住民が主体になって進めることが大切です。私たちは森下・橋本の自治会の皆さんや学校と次のような活動に取り組んでいます。

避難所の整備

前回、避難所に指定されていた学校で避難所が開設されなかったことが、逃げ遅れの要因の一つとなりました。**避難所が整備されないと訓練もできません**。そこで、水海道中学校、水海道二高、常総市危機管理担当課と避難所整備に関する話し合いを行い、まず**水海道中学校**で災害時に使う機材の設置と、地震と水害に備えた**避難所運営マニュアル**作りを進めています。

避難所は市が発電機や毛布などの資機材を配備しますが、実際の避難所運営は行政、学校、住民が協力して行うものです。資機材を配置し、運営マニュアルを作り、訓練をすることで、足腰の悪い方も乳幼児やペットがいる世帯も安心して避難できます。**年明けに避難所開設と避難訓練を行えるよう準備していますのでご参加下さい。**



9月1日に行った水海道中での避難所運営ゲーム



防災・避難マップづくり

森下・橋本では住民が街を歩きながら次の情報を調べ地図を作る活動も行っています。

(水害時に深い場所、塀などが倒れそうな道路、消火栓、公衆電話、AEDの場所、歩道の溝など)水害時に一時避難ができる建物も記載した避難マップを作り、いざという時に誰とどこへ避難するか家族や近所で考え備えるための活動です。**今後、マップづくり活動を行う際、ご参加下さい。**



地区のショートメールでの連絡網の導入

災害時は、防災無線だけでは伝わりません。前回の水害で、根新田自治会では携帯電話にショートメールを流す連絡網があったことで各世帯がどこにいるかがわかり、地区の被災状況を避難している住民に伝えたり、避難誘導、物資配給などでも力を発揮しました。

こうしたショートメール連絡網はスマートフォンを持っていない高齢者も簡単に登録できます。地区の資源回収や行事連絡にも活用できます。災害時に連絡体制があれば前回の水害では届かなかった情報、食料、支援物資が在宅の避難者にも届けやすくなります。

このように具体的に災害に備える活動を進めるために、森下・橋本の合同で自主防災組織を作る取り組みが進められています。この取り組みの一環で、

11月23日(木)14:30~16:30、旧片野医院住宅(表面:えんがわハウス)内で2年前の災害を振り返り今後の地域の防災を考える集いを行います。山口県宇部市からゲストを招いて防災先進地の話も伺います。ぜひご参加下さい。